

## 中国・四国地方の指導にあたって ～人口や都市・村落を中核とした考察

## ●『学習指導要領解説』の抜粋

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。「(ア)自然環境を中核とした考察」「(イ)歴史的背景を中核とした考察」「(ウ)産業を中核とした考察」「(エ)環境問題や環境保全を中核とした考察」「(オ)人口や都市・村落を中核とした考察」「(カ)生活・文化を中核とした考察」「(キ)他地域との結び付きを中核とした考察」

## (オ) 人口や都市・村落を中核とした考察

地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などに関連付け、過疎・過密問題の解決が地域の課題になっていることなどについて考える。

## ●指導上の留意点

まず、この地方について、なぜ「人口や都市・村落を中核とした考察」をするのかを理解させ、また、この問題を生徒にとって身近なものとして意識させるための導入が必要である。そのために、たとえば教師や生徒の親族が過疎地に住んでいる、あるいは、都市部に移住を余儀なくされているといった例を探してみ、そこにどのような生活上の問題や困難があるかを調べさせ、考えさせたい。また、一方では、自動車その他の産業が発達し、プロ野球球団の本拠地にもなっているような大都市もあり、産業や人口分布に大きな地域差があることが中国・四国地方の抱える問題の一つであることを理解させ、統計地図（人口密度、人口の増減率、高齢者人口率、一人当たりの所得、産業別就業人口率）や都市分布図などの作成・読図などの作業を含む学習を進めたい。新聞記事や視聴覚教材の活用にも留意したい。

## ●ワークシートの単元構成 &lt;想定する時間数:全体で5時間&gt;

| 時数 | 単元名                | 学習内容                        | 主な学習項目  | ページ  |
|----|--------------------|-----------------------------|---|------|
| 1  | 中国・四国地方のあらまし       | 中国・四国地方の位置と広がり<br>自然環境、地域区分 | 位置、範囲、県の名称と分布<br>地形と気候、3つの地域の自然の特色            | p.62 |
| 2  | 人口分布と<br>広島市のあゆみ   | 人口分布の地域差<br>大都市広島のみと現状      | 中国地方の人口分布<br>城下町から軍事都市へ、被爆と復興<br>大都市への発展、都市問題 | p.63 |
| 3  | 瀬戸内海と<br>人口の集中する地域 | 瀬戸内に集中する都市                  | 都市の分布<br>主な工業                                 | p.64 |
| 4  | 人口の少ない地域と<br>地域の動き | 人口減少と過疎問題                   | 少子化、高齢化<br>過疎化、過疎問題                           | p.65 |
| 5  | 中国・四国地方の<br>まとめ    | 大きくとらえた中国・四国地方              | 白地図を利用して、中国・四国地方<br>の特色を整理する                  | p.66 |

# 中国・四国地方 ①

## 中国・四国地方のあらまし

### ●学習のねらい●

地図帳を使って中国・四国地方の広がりや構成する県、自然環境の特色を調べよう。

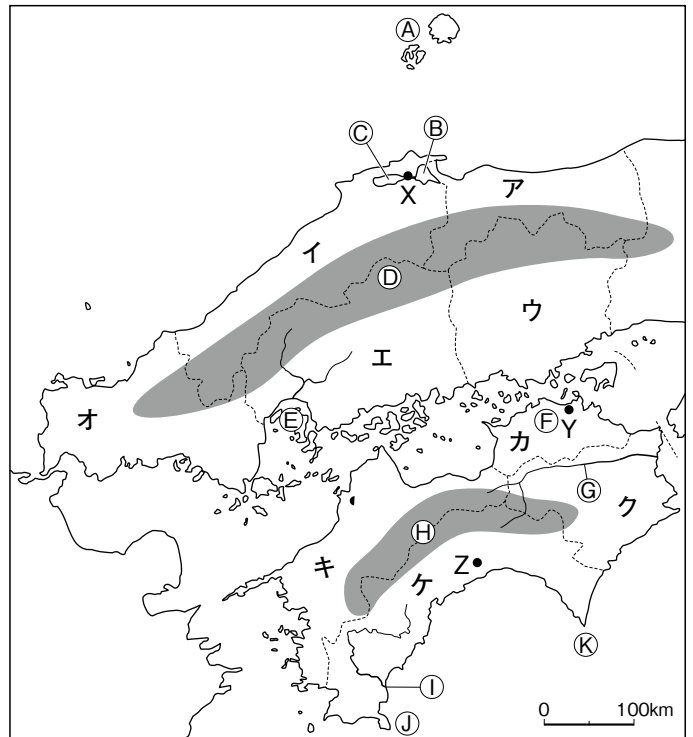
中国・四国地方は九州地方と近畿地方の間の位置にあり、古くから瀬戸内海の航路を利用した結びつきが見られます。中国地方には中国山地、四国地方には四国山地がそれぞれ東西方向にのび、それらを境として日本海側、瀬戸内、太平洋側の3つの地域に分けられます。こうした地形と季節風の影響によって、それぞれの地域の気候にちがいが見られます。日本海側は冬に雨や雪が多い一方、瀬戸内は温暖で晴天が多く水不足になやまされることもあります。太平洋側は沖を流れる黒潮（日本海流）の影響により一年を通じて温暖で、夏の降水量が多くなります。また、台風が通過して強風や大雨などの自然災害に見舞われることがあります。

中国地方は鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県の5県、四国地方は香川県、愛媛県、徳島県、高知県の4県からそれぞれ成り立っています。瀬戸内海を囲む地域は比較的人口が多く分布しているのに対して、中国山地や四国山地の周辺の山間部や瀬戸内海の離島、山陰地域ともよばれる日本海沿岸部、南四国地域ともよばれる太平洋沿岸部では人口分布が少なくなっています。こうした地域では、高度経済成長期に多くの人口が都市部へ移動したことで、特に農業・林業・水産業の第一次産業が衰退しました。現在でも、工場の労働力などとして都市部への人口の流出が止まらず、過疎地域が広がっています。

**課題 1** 左の地図の①～⑫に当てはまる地名を次の( )の中に記入しよう。また、ア～ケの県名と県庁所在地の都市名を下の欄に記入しよう。

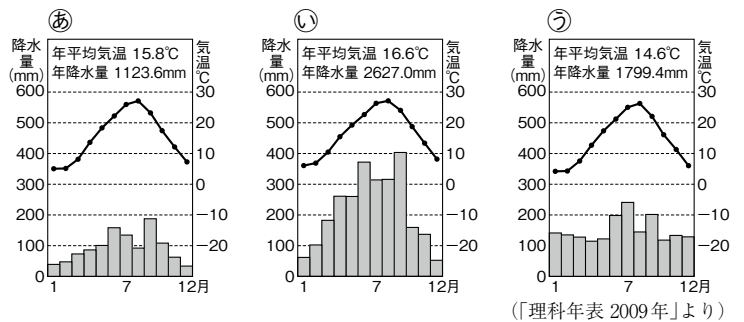
- ① ( ) 諸島      ② ( ) 海
- ③ ( ) 湖        ④ ( ) 山地
- ⑤ ( ) 川        ⑥ ( ) 平野
- ⑦ ( ) 川        ⑧ ( ) 山地
- ⑨ ( ) 川        ⑩ ( ) 岬
- ⑪ ( ) 岬

|   | 県名 | 県庁所在地 |
|---|----|-------|
| ア |    |       |
| イ |    |       |
| ウ |    |       |
| エ |    |       |
| オ |    |       |
| カ |    |       |
| キ |    |       |
| ク |    |       |
| ケ |    |       |



**課題 2** 上の地図中のX, Y, Z地点の雨温図を右の①～③から選んで、下の欄に記入しよう。また、それぞれの地点の気候の特色を、述べてみよう。

X ( )      Y ( )      Z ( )



(「理科年表 2009年」より)

X地点：  
 Y地点：  
 Z地点：

## 中国・四国地方 ②

# 人口分布と 広島市の歩み

### ●学習のねらい●

中国・四国地方の人口の分布がどうなっているのか調べよう。また、中国・四国地方の中心的な都市である広島市の歩みを理解しよう。

中国・四国地方は、人口分布に大きなかたよりのみられる地方の一つです。日本海側や太平洋側の地域は、内陸部や山間部を中心に人口密度が低くなっている一方、瀬戸内地域は、平野部に広島市をはじめとして大都市が分布し、人口密度が高くなっています。

広島市は、太田川を干拓した三角州の上に城下町として発達してきました。明治時代に入ってから中国地方の中心としてさらに発展し、沿岸部の埋め立てや港の建設が進みました。そして、日清戦争・日露戦争の遂行のために陸上と海上の交通が整備され、軍事関係の施設が多く置かれるようになり、しだいに軍事都市としての性格を持つようになりました。1945年8月6日、アメリカ軍によっ

て原子爆弾が投下されて、市街地は破壊され多くの死傷者を出しました。

戦後の復興はめざましく、市町村合併や自動車工業の発達もあって、戦前の人口を超える大都市に発展しました。1980年には政令指定都市に指定され、行政の権限が広がりました。新幹線や航空機などの交通手段の発達もあって、東京や大阪の企業が支店・支社を広島に進出させるなど、広島市は中国・四国地方の地方中枢都市として発展を続けました。

こうした発展により交通渋滞などの都市問題を発生させていますが、その一方で、広島市は国際平和都市として、国の内外に核兵器の廃絶と平和へのメッセージをアピールしています。

**課題 1** 次の表は中国・四国地方にある県の人口密度(2008年)を示しています。

|            |                      |            |                      |
|------------|----------------------|------------|----------------------|
| とっとり<br>鳥取 | 170人/km <sup>2</sup> | とくしま<br>徳島 | 192人/km <sup>2</sup> |
| しまね<br>島根  | 108人/km <sup>2</sup> | かがわ<br>香川  | 534人/km <sup>2</sup> |
| おかやま<br>岡山 | 274人/km <sup>2</sup> | えひめ<br>愛媛  | 254人/km <sup>2</sup> |
| ひろしま<br>広島 | 338人/km <sup>2</sup> | こうち<br>高知  | 109人/km <sup>2</sup> |
| やまぐち<br>山口 | 239人/km <sup>2</sup> |            |                      |

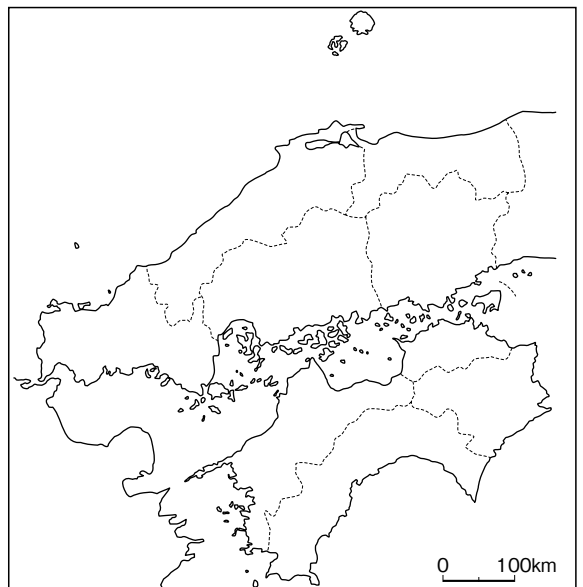
(「住民基本台帳 人口要覧」より)

・右の白地図に、人口密度のちがいをもとに、各県を次のように色分けしよう。

300人以上：赤色 200～299人：黄色 200人未満：青色

**課題 2** 課題1で作った地図を見て、人口密度が高い地域を次のA～Cから1つ選んで、記号で答えよう。

A = 日本海に面した地域      B = 瀬戸内海を囲む地域      C = 太平洋に面した地域      ( )



**課題 3** 次の①～⑤は、広島市の歴史に関係があることがらを述べた文です。それぞれの文について、正しければ○、まちがっていれば×を書き込もう。

- ① 港が整備され、鉄道の便もよかったので、日清戦争当時、軍の司令部や臨時の帝国議会が置かれた。( )
- ② 第二次世界大戦にいたる歴史の中で、軍の施設や軍事産業が多くなり、軍事都市の性格が強くなった。( )
- ③ 1950年8月6日原子爆弾が投下され、市街地のほぼ全域が破壊された。( )
- ④ 戦後の復興はめざましく、1980年には中国・四国地方のなかではじめて政令指定都市になった。( )
- ⑤ 原爆ドームがユネスコの世界遺産に登録された。( )

**課題 4** 広島市では路面電車が市民の重要な交通手段になっていますが、かつては廃止の対象とされたこともありました。路面電車の存続について自分の意見を、その理由もそえて述べてみよう。

-----

中国・四国地方 ③

瀬戸内海と人口の集中する地域

●学習のねらい●

瀬戸内海を囲む地域には都市が多いこと、また、それらの都市はどのような産業が発達しているのかを調べよう。

中国山地や四国山地、離島の農村地域では、農業・林業・水産業の第一次産業を中心とした経済によって人々の暮らしが営まれてきました。一方、瀬戸内海の沿岸地域では明治時代に鉄道が開通すると、朝鮮半島や中国に近い九州地方への交通路として、鉄道網に沿って都市が連続するように発達してきました。この地域は高度経済成長期に、以前からの造船業などに加えて、鉄鋼や石油化学、自動車などの工業が発達し、瀬戸内工業地域とよばれるようになりました。さらに、中国自動車道や山陽自動車道の開通、本州と四国を結ぶ本州四国連絡橋の三つのルートの整備、地方空港の開設など、中国・四国地方の交通網は発達してき

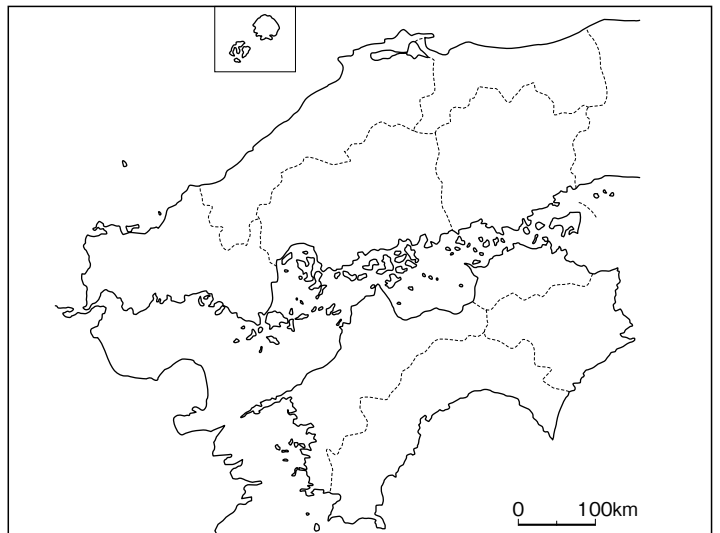
ました。

こうした交通網の整備により、各地域の人々の生活は変化しました。例えば、四国からの本州への物資の輸送が容易となり、通勤や通学、買い物などで四国から本州へ出かける人が増えました。その結果、地元の商業に大きな影響をもたらし、商店街がさびれたり、デパートが閉店したりしています。また、自動車の利用が増えることでフェリーなど海上交通の航路が廃止されたり、利用客が少ないことで地方空港の便数が減らされたりしています。こうした交通機関に対して、地元の自治体では補助金を出したり、税金を投入しながら経営を維持させようとしています。

課題 1 次の表はこの地方にある人口15万人以上(2009年)の都市を示しています。これらの都市を右の地図に黒丸で書き込もう。

| 県  | 都市  | 人口(千人) | 県  | 都市 | 人口(千人) |
|----|-----|--------|----|----|--------|
| 鳥取 | 鳥取  | 196    | 山口 | 下関 | 283    |
| 島根 | 松江  | 192    |    | 山口 | 187    |
| 岡山 | 岡山  | 687    |    | 宇部 | 173    |
|    | 倉敷  | 473    |    | 周南 | 152    |
| 広島 | 広島  | 1153   | 徳島 | 徳島 | 259    |
|    | 福山  | 463    | 香川 | 高松 | 423    |
|    | 呉   | 246    | 愛媛 | 松山 | 514    |
|    | 東広島 | 177    |    | 今治 | 173    |
|    |     |        | 高知 | 高知 | 339    |

(「住民基本台帳 人口要覧」より)



課題 2 右の表は2008(平成20)年から2009(平成21)年にかけて人口が増えた都市と、増えた人数を示しています。課題1で地図に書き込んだこれらの都市の黒丸のまわりを、赤丸で囲もう。

|    | 増加数(人) |    | 増加数(人) |
|----|--------|----|--------|
| 岡山 | 1572   | 山口 | 228    |
| 倉敷 | 1073   | 高松 | 923    |
| 広島 | 4101   | 松山 | 475    |

(「住民基本台帳 人口要覧」より)

課題 3 課題1と2の作業の結果、どんなことがわかりましたか。

-----

課題 4 瀬戸内海沿岸の都市の中でもとくに工業が盛んな都市として、倉敷市と広島市があります。それぞれの都市で盛んな工業を調べてみよう。

倉敷市：  
  
広島市：

中国・四国地方 ④

人口の少ない地域と地域の動き

●学習のねらい●

中国・四国地方の過疎地域で起きている地域社会の課題とその対策について調べよう。

中国・四国地方の日本海側と太平洋側の地域では人口が少ないうえ、現在でも人口の減少が続いています。なかでも、中国山地や四国山地を中心とする山間部と日本海や瀬戸内海の多くの島々では人口減少が激しく、それによるさまざまな問題がみられます。多くの青年や働き盛りの人たちが進学や就職のために都市部へ出て行くことで、地域の人口の高齢化が進んでいます。こうした人口減少と高齢化により、森林や水田の維持や管理が難しくなり、森林が荒れたり休耕田や耕作放棄地が増えたりしています。また、地域の病院や学校、商店などの維持が難しくなり、バスなどの公共交通も路線が

廃止されたり便数が減らされたりして、生活条件は厳しくなっています。さらに、地域の伝統的な行事が継続されなくなるなどの影響もみられます。

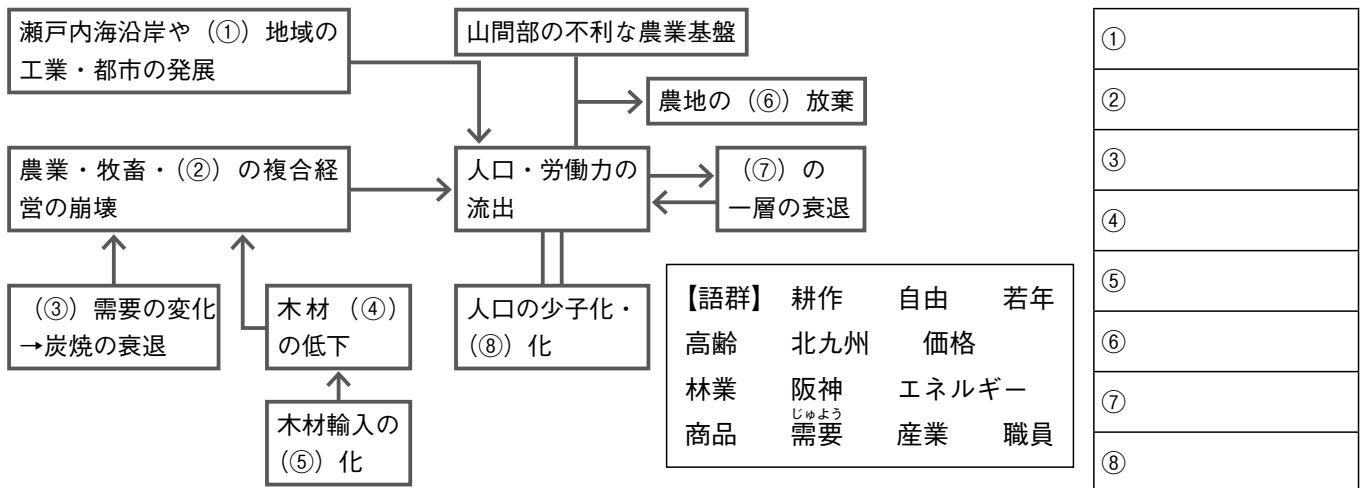
こうした自治体のなかには、財政が悪化したり、高齢化によりその地域の人々の生活や社会の持続が難しい「限界集落」とよばれる地域がみられたりするようになりました。中国自動車道など高速道路の整備により山間部に工場が進出し雇用が生まれたり、農水産物が出荷しやすくなることで地域おこしが進められたりする例もありますが、教育や行政サービス、商業活動が都市部に集中し、いっそう過疎化が進む傾向もみられます。

**課題 1** 右の表は2004年から2009年にかけての中国・四国地方の各県の人口の動きを調べて表にしたものです。人口減少が著しいのは日本海側、瀬戸内、太平洋側のうちのどの地域か答えよう。

|    | 2004年(万人) | 2009年(万人) | 増減数(万人) | 増減率(%) |
|----|-----------|-----------|---------|--------|
| 鳥取 | 61        | 59        | 2       | -3.28  |
| 島根 | 75        | 72        | 3       | -4.00  |
| 岡山 | 196       | 194       | 2       | -1.02  |
| 広島 | 287       | 285       | 2       | -0.70  |
| 山口 | 151       | 147       | 4       | -2.65  |
| 徳島 | 82        | 80        | 2       | -2.44  |
| 香川 | 103       | 101       | 2       | -1.94  |
| 愛媛 | 150       | 146       | 4       | -2.67  |
| 高知 | 81        | 77        | 4       | -4.94  |

(「住民基本台帳 人口要覧」より)

**課題 2** 次の図は中国・四国地方の過疎化のしくみを図式化したものです。図中の①～⑧に当てはまる言葉を下の語群から1つずつ選び、解答欄に記入しよう。



**課題 3** 過疎化の問題としてどのようなことが起こっていますか。箇条書きにしてみましょう。

- 
- 
- 
- 
-

# 中国・四国地方のまとめ

●学習のねらい●

中国・四国地方の人口の特色とその変化について理解しよう。また、過疎地域で見られる地域おこしなどの事例について、新聞記事やインターネットなどを利用して調べよう。

1950年代の終わりごろから始まった高度経済成長は、日本に大きな地域格差をもたらしました。太平洋ベルトを中心に工業が発達し都市が成長する一方で、それ以外の地域では所得が伸びず、人口が流出し、特に山間地や離島の多くで人口の過疎化が進みました。そのうえ、木材輸入の自由化で安い外材が輸入されるようになり、それまでスギやヒノキなどの木材生産を中心とした林業は立ち行かなくなりました。エネルギー革命とよばれる燃料の需要の変化によって薪や炭が売れなくなったことも、山村の過疎化の原因になりました。

1975年に山陽新幹線が博多まで開業、80年代以降には本州四国連絡橋や高速道路が次々と開通し、地方空港の整備と

あいまって人やものの移動が大きく伸びました。広島市など瀬戸内の大都市の商圏や通勤圏が広がり経済活動が活発化しました。しかし、地域格差は縮小せず、過疎地域の課題は解決されることなく残りました。

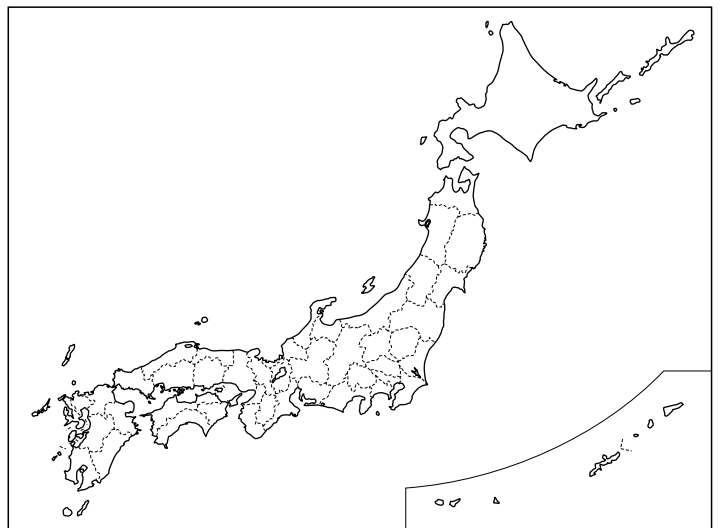
政府は、「平成の大合併」とよばれる地方自治体の合併を積極的に進め、地方財政の合理化を図りました。一方、道路整備などの公共事業を助成するなどの対策をとってきましたが、過疎化をくいとめるには至っていません。そうしたなかで、地域の自然や農林業・歴史遺産を都会の人のレクリエーションの場や観光資源として活用したり、特産物を開発して地域の産業に育てるなど、さまざまな地域おこしの努力が行われています。

**課題 1** 次の表は都道府県別の一人当たり平均所得上位10位と下位10位を示しています(2006年)。右の地図で上位10位の都道府県を赤、下位10位の都道府県を青で着色してみよう。

| 上位  | 所得(千円) |
|-----|--------|
| 東京  | 4820   |
| 愛知  | 3509   |
| 静岡  | 3389   |
| 滋賀  | 3352   |
| 神奈川 | 3257   |
| 三重  | 3193   |
| 栃木  | 3104   |
| 広島  | 3095   |
| 大阪  | 3083   |
| 富山  | 3013   |

| 下位  | 所得(千円) |
|-----|--------|
| 沖縄  | 2089   |
| 宮崎  | 2150   |
| 長崎  | 2159   |
| 高知  | 2170   |
| 鹿児島 | 2283   |
| 秋田  | 2334   |
| 岩手  | 2346   |
| 熊本  | 2398   |
| 島根  | 2422   |
| 鳥取  | 2437   |

(「県民経済計算」より)



**課題 2** 課題1でできた地図を見て、読み取れることとして正しいものを、次のア～エからすべて選び、その記号を答えよう。

- ア. 気候が温暖な地域ほど所得が高く、冷涼なところほど所得が低い。
- イ. 平地が多いところほど所得が高い。
- ウ. 北陸の一部と、関東から北九州を結ぶ带状の地域に所得の高いところが多い。
- エ. 九州の大部分と南四国、山陰、東北地方が所得の低い地域といえる。

( )

**課題 3** 昔と今とで、家庭で使われる燃料はどう変わってきたか、調べてみよう。

-----

**課題 4** 過疎対策に努力している中国・四国地方の事例を調べてみよう(場所・どんなことをしているか など)。

-----